

同志社女子大学「DWCLAデータサイエンス・AI教育プログラム」自己点検評価・報告書

下記の到達目標において、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に取り組みに係る自己点検・評価結果を示す。

【到達目標】

・私たちの社会とデータやAIの関係の現状と未来を、倫理的・制度的・技術的な側面から考えることを通じて、データサイエンスの意義を理解し、データに基づく課題解決の基礎的な方法論を修得する。

- ・評価日：2025年3月25日
- ・評価組織：教務部主任会
- ・評価対象：2024年度秋学期「データサイエンス・AI基礎」に関する取り組み

自己点検・評価の視点	取り組みと評価
1. プログラムの履修・修得状況	数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の趣旨を踏まえ、2024年度は全学横断的な教育プログラムである「同志社女子大学データサイエンス・AI教育プログラム」を開設し、2022年度より開講していた「データサイエンス基礎」については、データサイエンス・AI科目区分に選択必修科目「データサイエンス・AI基礎」として内容の充実を図った。 本科目は、全学部・全学科を対象としており、1年次生1,156名、2年次生41名、3年次生18名、合計1,216名の学生が受講し、最終的に1,121名が修了した。2022年度からの当該科目修了者数合計は3,243名となる。 2024年度新入生の履修率は75.1％（1,156名／1,538名）となっており、2023年度新入生の履修率75.6％（1,169名／1,547名）と同水準の履修者数となった。このことは、各学科における履修指導の成果といえる。また、2023年度まで開設していた教職必修科目である「コンピュータ活用」をカリキュラム改正のうえ「データサイエンス・ICT活用基礎」として21クラス開講し、履修者数は合計463名となった。当該科目もデータサイエンス・AI科目区分の科目として位置付けることで、本学におけるデータサイエンス分野のより一層の充実および学生への浸透を図っている。
2. 学修成果	授業支援システム（manaba:本学愛称「マナビー」）を用いた遠隔授業（オンデマンド型）で授業を実施した。 具体的な実施方法としては、履修者1,216名を12クラスに分け、100名程度のクラスに1名の担当者を配置し、LMS上で質問を受けつけるなどして、学生の理解を深めることとした。また、そのクラスの担当者は、本学の様々な分野の専任教員が担うことで、全学共通科目として位置付けを確立した。 さらに、2024年度から授業内容を一新した「データサイエンス・AI基礎」では、ゲストスピーカーとして、大手製造業担当者等3社を招聘し、対面およびオンデマンド形式で実社会で起きているデータサイエンス・AIの進化についての講義を聞くことができた。これにより、学生は実社会の最新の動向に触れ、授業内容への理解を一層を深めることができた。
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業アンケート（回答者数709名／履修者数1,216名／回答率58.3％）の結果から、「この授業は全体として満足できる内容でしたか」という問いに対して、90.4％の学生が「そう思う・ややそう思う」と回答。「あなたは到達目標を達成できたと思いますか」という問いに対しても、83.2％の学生が「そう思う・ややそう思う」と回答。「授業レベルは自分に合っていました」という問いに対して87.9％が「そう思う・ややそう思う」と回答していることから、受講生の授業に対する満足度・理解度も高いことが確認できる。 また、自由記述においても「データやAIについて深く知ることができてとてもいい授業だった。難しい言葉も多かった、オンデマンドなので動画を止めて見直したりもっと調べたりすることができた。」「教科書の説明をするだけでなく、実際に企業で情報がどのように使われているかを講義で説明していただいたため、とてもわかりやすく、知識を深めることもできた。」「今後AIが普及することが確実な中で、AIのネガティブなところを知ることができたことや"データを活用する"という意味を詳しく理解できたことは自分にとって成長したと思え、今後の成長にも役立つと思う。」など、前向きな感想を確認することができた。

自己点検・評価の視点	取り組みと評価
4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	「データサイエンス・AI基礎」は全学部・学科生を対象としており、2024年度入学生以降は【データサイエンス・AI科目区分】の「選択必修」科目として、2023年度以前入学生は【共通学芸科目区分】の「選択」科目として開講している。 2024年度新入生の履修状況は、メディア創造学科、国際教養学科、社会システム学科、医療薬学科、看護学科、英語英文学科、人間生活学科、食物栄養科学科で履修率90％前後となっており、科目開設3年目ではあるが、学生の「データサイエンス・AI」への関心度は着実に高まっていることがわかる。
5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	2024年度より「同志社女子大学データサイエンス・AI教育プログラム（DWCLA-Educational Program for AI and Data science as Liberal Arts：（DWCLA-ADa））を開設した。本プログラムについては動画コンテンツを作成し、Webサイトに公開することで、本学データサイエンス・AIプログラムの更なる認知拡大をめざした。同プログラムの開設と併せて全学的なカリキュラム改正を行い、2024年度以降入学生に「データサイエンス・AI科目区分」において、卒業に必要な単位として選択必修2単位を設定した。これにより学生には、「データサイエンス・AI基礎」もしくは「データサイエンス・ICT活用基礎」のいずれかの科目の履修を義務付けることができた。この2科目を「基礎」科目群として、さらに実践的な学びを提供するために、「実践」科目群として「データサイエンスのためのAIプログラミング入門」「データサイエンスのための統計入門」「ことばのデータサイエンス」「実践から学ぶAI入門」の4つの選択科目を開講することとした。これらのカリキュラム改正と並行して、全学生を対象に「DWCLAデータサイエンス・AIプログラム」を構築し、「基礎」科目群から1科目以上、「実践」科目群から1科目以上、本プログラムに係る科目（「本学全カリキュラムから本プログラムに選定された科目」「同志社大学単位互換科目」「大学コンソーシアム京都単位互換科目」「放送大学科目」等）をあわせて合計5科目10単位以上修得した学生には、修了証を発行することとしている。2024年度は上記の条件を満たすことで、4年次生32名、3年次生2名が修了証を取得した。 今後も学内外を問わず積極的に広報活動を展開することで、「同志社女子大学データサイエンス・AI教育プログラム（DWCLA－ADa）」の更なる認知拡大を図り、特に全学部全学科で開講されている「データサイエンス・AI基礎」について毎年度の履修者数1,200名を一つの目安としたい。